

このお話はおむつ女兒になるためのマニュアルを
実践した、ある男の娘の幼児退行記録です。

今回マニュアルを実践してくれたのは
『相田めぐむ』君。

身長149cmと19歳の男性としては
かなり小さめの身長で、よく小学生に
間違えられてるみたいです。

そんなめぐむ君が19歳になり、一人暮らしを
始めたタイミングで自分の好きなおむつや女兒服を
堪能しようとしてるみたいです。

それではおむつ女兒マニュアルと一緒に
めぐむ君の幼児退行記録を見ていきましょう。

おむつ女兒化マニュアル

【入門編 その①】

～女兒服を用意しよう～

まず改めて被験者の紹介から参りましょう。

名前 相田めぐむ

身長149cm 体重37kg

とても成人を迎える男性の体型としては思えない
とても小さな体型ですね。



顔つきも非常に童顔で、まるで小学生の
女の子のようですね。

何やら顔を赤らめているようですが
何かあったのでしょうか？

「ふう。やっと届いた・・・」
めぐむ君は何かが家に届くのを
待ちわびていたようです。



どうやらネット通販で女兒服を買ったようです。
女兒服が好きなめぐむ君も店舗に出向いて
女兒服を買うのはさすがに抵抗があったようですね。

では実際にめぐむ君が購入した女兒服を
見て行きましょう。

トップスはフリルをあしらったオフショルダー。



普段着ることの無い肩出しデザインと
可愛らしいフリルがより一層女の子らしさを
感じさせます。

続いてはスカートです。

めぐむ君はジャンパースカートを選んだようです。
フリルがついたハートのアップリケに
可愛いリボンが付いていますね。



女児服とは言っても小〇生用のサイズなので
体の小さいめぐむ君でもさすがに小さめの様です。
どうやらおむつも穿いているようですが
また後ほど見ていきましょう。

続いてはソックスです。

小〇生女兒らしいハート柄にリボンの付いた
ニーハイソックスを選んだみたいです。



こちらのニーハイソックスも女兒服の
定番アイテムなのでめぐむ君と同じように女兒服を
買われる方は必ず用意しておきましょう。

それでは全身コーデを見ていきましょう
女兒服を選ぶ時のポイントは

①カラフルで女の子らしいパステルカラーを選ぶこと
②ボトムスは必ずスカートにすること

③サイズは小さめがおすすめ

以上のポイントを押さえればあなたも
おむつ女兒になるための準備は万端です。



めぐむ君のコーデはしっかりとポイントを押さえていますね。特にジャンパースカートの丈が短く、おむつがチラ見えしているのは好ポイントです。おむつが自力で隠せない状態は幼児っぽさが出て羞恥心をとて刺激するのでおすすめです。

おむつ女兒化マニュアル

【入門編 その②】

～立ったままおむつにおもらししてみよう～

おむつ女兒になることはすなわち、
おむつが取れない体にならないといけません。
入門編その②では、おもらしからおねしよが
できるようになるまでの方法をめぐむ君と一緒に
学んでいきましょう。



まずおむつにおもらしをしてみましよう。
と言っても、当然ですがおむつにおしっこをすることに
体が慣れていないため最初は難しいと思います。
めぐむ君も初めてのおむつおもらしには
抵抗があるようだなかなおもらしができないようです。

「んっ・・・なかなか出ないよう・・・」
めぐむ君はおもらしをする為にたくさん水を飲んだので
膀胱は既にパンパンです。ですが初めてのおもらしに
不安と緊張が重なって無意識に力んでしまっ
ているようです。



力んでしまっではおしっこも出てきません。
いったん心を落ち着かせて再度挑戦してみよう。
普段トイレでおしっこをすると同じように
脱力してみよう。すると自然におしっこが
出てきます。

プルプルと体を小刻みに震わせてまるで小○生が
おもらししてしまう時のような仕草を見せるめぐむ君。
女兒服とおむつを着用しただけで心まで
幼くなってしまうっているようです。



「あっ・・・出てきそうっ・・・」
どうやらうまく脱力できてきたのか、
だんだんおむつにおしっこをする感覚を
掴んできたようです。



「あっ・・・あっ出るっ・・・！」



溜まっていたおしっこは出始めると勢いよく出て
あっという間におむつをタップタップに濡らして
しまいました。



おしっこの温もりがじんわりと股間を包んで行く感覚に
とてつもない快感を感じているようです。

「本当におもらししちゃった……。
僕、男なのにかわいいお洋服着て、おむつ履いて、
おもらししちゃったんだ……。」



普段の生活では味わうことのできなかったおむつの感覚と
本来、性的な目的では使わない女○服を着て、
いけないことをしてしまった背徳感は
男の娘であるめぐむ君の自尊心を奪っていきます。

この後もめぐむ君は恍惚とした表情で
おむつを何度も触っておもらしおむつの感触を
味わっていました。



マニュアルの最初の手順であるのにもかかわらず、
早くもおむつ女児としての才能を見せてくれためぐむ君。
次はどんな姿を見せてくれるのでしょうか？

おむつ女兒化マニュアル
【入門編 その③】

～寝た体勢でおもらししてみよう～

次のステップは寝た体勢でのおもらしです。
寝た体勢でのおもらし癖をつけるトレーニングです。
寝た体勢でおしっこをすることによって
おねしょと同じ感覚を体に覚えさせることができます。



また、おむつにおもらしする事に慣れてきたら
おしっこをする際は必ずベッドに入り、寝た体勢で
するようにしましょう。こうすることで
「ベッドはおしっこをする場所」と脳が認識し、
自然におねしょをする体に変わっていきます。

寝た体勢で自然におもらしができるようになれば
おねしょ体質にグッと近づくでしょう。
寝た体勢でのおもらしはおむつ女兒化マニュアルの
中でもかなり重要なステップになります。



当然焦りは禁物です。焦ってしまつては、
おしっこも出てきませんからね。
じっくりと体を慣らしていきましょう

さあ、それではめぐむ君を観察していきましょう。
さすがに仰向けでのおもらしは抵抗があるようで
表情にも不安が見えますね。



夜になるといつも抱いて寝ている
くまのぬいぐるみをぎゅっと強く抱えていますね。
まるで小学生、いや幼稚園児の女の子の様な
仕草ですね。

次に服装を見ていきましょう。
今度はパープルのパフスリーブのトップスに
可愛いピンクの裾にフリルがあしらってある
ジャンパースカートを着用しています。



サイズはやはり小さ目で、おむつは完全に
露わになっています。
女兒服でスカートを選ぶ場合はやはり、
めぐむ君のようにサイズは小さめが良いでしょう。
女兒つぽさが出ることによって、より恥ずかしさが
増します。

「うん。おしっこはしたいのに、
なかなか出ないなあ・・・」



既ににめぐむ君の膀胱にはたっぷりおしっこが
溜まっているいるようですが、
慣れない体勢のせいか、少し力んで
しまっているようです。

決して力んで無理やりおしっこをしてはいけません。
おねしょをするには完全に体がリラックスして
いなければいけません。



焦らずゆっくりと、おしっこをする感覚に集中し、
おしっこが出てくるのを待ちましょう。

「あっ……もうすぐ出そう……」



だんだんめぐむ君もリラックスしてきたようですね。
おしっこがおちんちんの先っちょまで来たら
力を抜いて一気に出してしまいましょう。



「やあ……でっ出る……」



「あ・・・おねしょしちゃった時と同じ感覚・・・」
おしっこ温かい感触がおなかの方を伝う感覚。
幼い頃に味わったおねしょの感覚が再び
めぐむ君のなかで蘇ったようです。



最初は横漏れなどが怖くなりおもらしをするのに
抵抗が出てしまうことがあると思いますが、
気にせず一気におしっこを出してしましましょう。
おねしょシートを敷いておくと漏れても安心なので
必ず買うようにしましょう。

さて、寝た体勢でのおもらしに成功したら
次のステップです。
次は寝起きの状態でおもらしをしましょう。



寝起きの状態で起き上がらずにそのままの体勢で
おもらしをしましょう。
寝起きでのおもらしをすることでおねしょと非常に
近い状態を作ることができます。

寝起きで頭がぼんやりした状態でおもらしをするのが良いでしょう。そうすることでおもらしをした時の記憶が曖昧になります。



目覚めて頭がしっかりと働く頃には、おむつが濡れている原因が故意による「おもらし」なのか、無意識による「おねしょ」なのか区別が付かなくなるでしょう。

ぼんやりとした意識の中で力を抜いて躊躇なく
おもらししてしましましょう。おそらく寝起きの時は
おしっこがたくさん溜まっているので、
おしっこの量の多さにより横漏れする危険性が
あります。

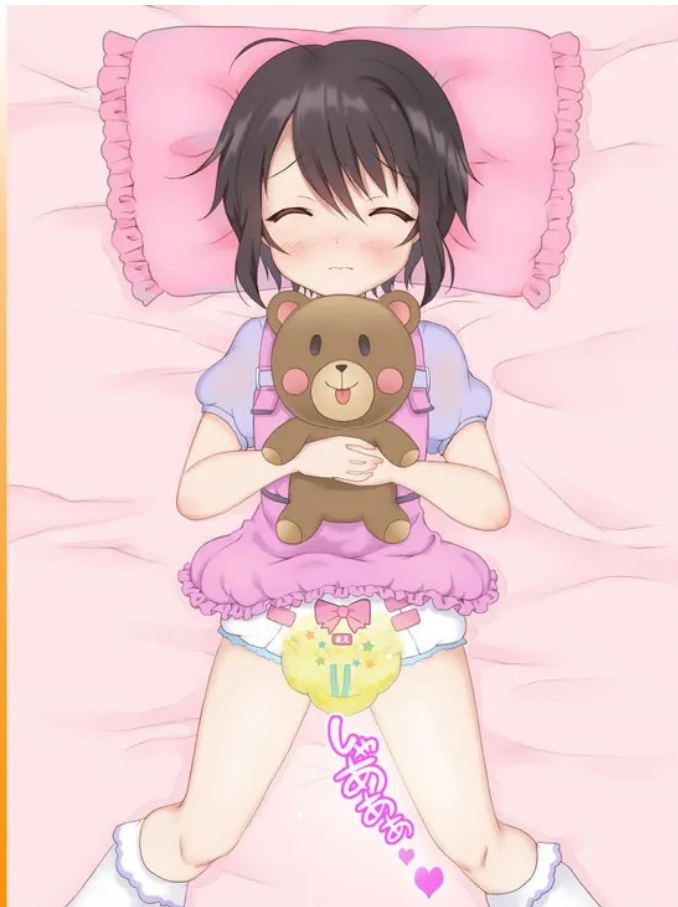


横漏れすると焦って即座におもらしを
躊躇してしまうので、横漏れしても大丈夫のように
必ずおねしょシーツを敷くようにしましょう。

さあ、めぐむ君もすでに溜まったおしっこに
限界のようです。



このマニュアルを読んでいるそのあなたも
めぐむ君と一緒にむつにおもらしして
しまいましょう。



めぐむ君はおむつをパンパンに膨らませるほどの
たくさんのおもらしができたようですね。

さあ、あなたもおむつにおもらしできましたか？



本来、おねしょやおもらしをすることと言っているのは
『いけないこと』と認識されていますが、
ここではむしろ褒められる事です。
『よくできました』とおもらした自分を
褒めてあげましょう。

そして、自分にこう言い聞かせましょう。
『私はまだ、おむつの取れない女の子です』と。
頭の中で何度も唱えて、本当に自分が、
「おむつの取れない女の子」ということを
自覚させましょう。



声に出してみるのもいいでしょう。
自覚が強く芽生え、自尊心が無くなって行くのが
実感できることでしょう。

さあ、寝た体勢でのおもらし、寝起きでのおもらしが出来たらこれを毎日続けていきましょう。
寝た体勢でのおもらしはおむつ女兒化への一番の近道です。しっかりと毎日やるようにしましょう。



個人差はありますが、早ければ2週間、遅くても3か月経過する頃には、自然とおねしよが出来るようになっていくことでしょう。

おむつ女兒化マニュアル
【入門編 その④】

～外出時もおむつを穿きましょう～

今回のステップは「外出時もおむつを穿きましよう」ということで、めぐむ君はおむつを穿いて外出しているようです。顔を赤らめて、歩き方も少しぎこちないように見えます。それもそのはず、おむつの厚みでズボンが少し膨らんでしまっています。



股にはおむつの吸収体のもことした感触、歩いているときにはおむつと衣服が擦れカサカサと小さな音も出ます。めぐむ君はおむつを穿いていることが通行人にバレてしまわないかドキドキしているようです。

おむつ女兒化マニュアルでは下着は常におむつでなければなりません。尿意を感じたらすぐおむつにおもらしができるようにいつでも準備しておく事が大切です。



外出するからと言っておむつを外していてはおむつ女兒への道は遠くなってしまうことでしょう。もし、外出先で着替えをする事があり、おむつを穿いている事がバレるのが嫌だという人はおむつの上からパンツを穿いて隠して下さい。

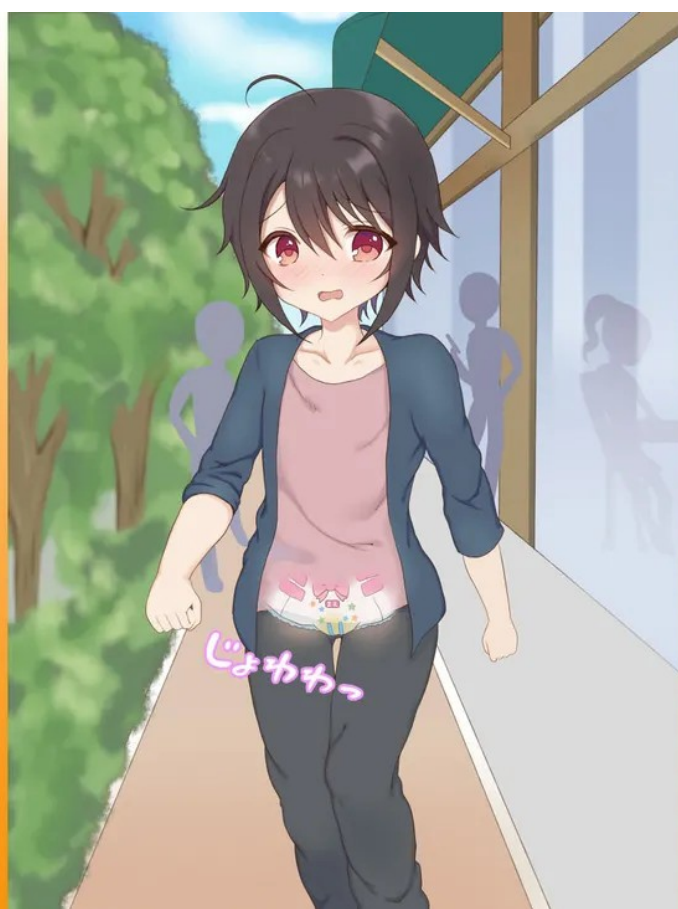
さて、めぐむ君もそろそろ尿意が近づいてきた
ようです。少し内股になりながらモジモジしています。
脚運びもゆっくりとしてきてもう我慢できそうに
ありませんね。さあここでポイントがあります。
皆さんも同じシチュエーションになった時、
注意しなければいけないことがあります。



それは、ほかにも通行人がたくさんいるからと言って
トイレに行ったり、物陰に隠れておもらしすることです。
おむつ女兒化マニュアルでは
『尿意を感じたらおむつにおしっこする』
これが鉄則です。尿意を感じた瞬間に
躊躇せず、おしっこを出してしましましょう。



あぁダメっ
もう漏れちゃう...!!



人前にもかかわらず、めぐむ君はしっかりと
おもらしすることができたようです。
人前でおもらしする背徳感が想像以上だったのか、
めぐむ君は興奮が冷めないようです。



さあ、あなたはもうできましたか？
きちんと外でおもらしできましたか？
外出先でのおむつ穿いてのおもらしは、
緊張、背徳感、羞恥心、いろんな感情が混じり合うので
今まで味わったことのない興奮が待っていること
でしょう。

おむつ女兒化マニュアル

【入門編 その⑤】

～おまるを使ってみよう～

続いてのステップは「おまるを使ってみよう」です。
ですが、今回のステップは言わば「番外編」です。
何故かと言うと、おむつ女兒化マニュアルでは基本、
おむつ以外でのおしっこは禁止だからです。



おまるにおしっこをする、と言う行為は
普通におしっこをする行為と似ているので連続で
行うことはあまりお勧めできません。
ですが、「たまに使う分」には非常に効果があります。

おむつ生活を続けていると、最初の3、4日ぐらいは毎日おむつを穿いて、楽しむ事ができると思います。しかし、だんだんモチベーションが続かなくなる日が来ると思います。



と言うのも、モチベーションが続かないのは、人間としては至極当然なことなのです。人間は新しいことを始めようとすると脳が嫌がり、拒否しようとするのです。

例を挙げるとすれば、ダイエットが良い例でしょう。ダイエットを始めようとする人は大半が短期間で失敗し、いわゆる「3日坊主」状態になってしまうことから分かるようにおむつ生活でも同じことが起こってしまうのです。ではどうすればよいのか？



答えは「おむつにおしっこをするより簡単、なおかつおむつ女兒気分が味わえる行為」をすればよいのです。その行為におまるにおしっこがピツタリなわけです。おむつおもらしにはおむつを穿き替えたりおねしょシートを敷いたりなど多少の手間が必要ですがおまるならいつも通りおしっこをするだけなので非常に簡単です。

今日はめぐむ君も珍しいことに、おむつ生活に
気が乗らないようですので、おまるを使うみたいです。
しばらくの間おむつにおもらしをしていたせいか、
おむつ無しでのおしっこに違和感を
感じているようです。



長さ4cmにも満たさなそうな、小さいおちんちんが
可愛らしいですね。陰毛もすべて剃っており、
赤ちゃんのようなつるつるおちんちんです。
当然ですが、このマニュアルを見ているあなたも
めぐむ君のようにおちんちんの毛はすべて無くして
つるつるおちんちにしましょう。

おまるに跨ると強制的に股を開いた状態になるので
おちんちんが隠せない状態になるので羞恥心を
感じることができるでしょう。

さらに、トイレではない場所でおしっこをする
という行為に強烈な背徳感を感じることでしょう。



そして、改めて気づかされるでしょう。
自分が「トイレでおしっこできない女の子」だと言う
ことを。大きくなったのにトイレでおしっこ
できないから、まだおまるでトイレトレーニング
しているダメな女の子だと言うことを。

『あれ・・・？おしっこってどうやってするんだっけ？』
めぐむ君はおむつにおしっこをし続けた結果、
おしっこの仕方を忘れてしまう段階まで来ている
ようです。あなたも赤ちゃんのように無意識に
おむつにおしっこをすることを続けていけば
いずれめぐむ君のようにおしっこの仕方が
分からなくなることでしょう



『おなかに力を入れるんだっけ？抜くんだっけ？』
尿意はかすかに感じるものの、混乱しているめぐむ君は
おまるに跨ってからおしっこをできずに既に数分が
経過しようとしています。
一旦、めぐむ君はおしっこを諦めようと思いました
すると次の瞬間・・・

『あれ・・・？おしっこってどうやってするんだっけ？』
めぐむ君はおむつにおしっこをし続けた結果、
おしっこの仕方を忘れてしまう段階まで来ている
ようです。あなたも赤ちゃんのように無意識に
おむつにおしっこをすることを続けていけば
いずれめぐむ君のようにおしっこの仕方が
分からなくなることでしょう



『おなかに力を入れるんだっけ？抜くんだっけ？』
尿意はかすかに感じるものの、混乱しているめぐむ君は
おまるに跨ってからおしっこをできずに既に数分が
経過しようとしています。
一旦、めぐむ君はおしっこを諦めようと思いました
すると次の瞬間・・・



めぐむ君の意志と反し、おしっこが勢いよく
出てしまいました。さすがに焦ったためぐむ君は
おしっこを止めようとしては、一度出ってしまった
おしっこを止めるのは難しく、ぷしやあああつと
恥ずかしぐらいの音を立てながら出ていきます。



おしっこが止まらない焦りと同時に
「もうおむつ無しではおしっこできない」と言う不安が
めぐむ君の頭に完全に刷り込まれたことでしょう。

不安が駆け巡っても怖がらなくて大丈夫です。
なぜならもうあなたは「おむつ女兒」なのですから。
おまるでおしっこなんて当然できるはずがありません。



おむつはずれをするために、子供がママと一緒に
一生懸命トイレトレーニングして、
初めておまるでおしっこできるようになるのに、
毎日おむつにおもらししてるあなたがうまく
おしっこできるはずがありません。

もうこれで自分が本当に「おむつ女児」だということを
自覚できましたね。きつとめぐむ君もこれからは
おむつが完全に手放せなくなったでしょう。



さあ、ここまで来れば、身体がおむつ女児に
なったわけですが、おむつ女児化マニュアルは
ここで終わりではありません。
ここまではあくまで「入門編」です。
次のステップは「上級編」です。
楽しみにしておいてくださいね。

おむつ女兒化マニュアル

【上級編 その①】

～女兒服を着て外出をしてみよう～

続いてのステップはついに上級編です。
ここまでステップをこなしてきたあなたはすでに
「おむつ女兒」として立派な状態であることでしょう。
この上級編で、さらにおむつ女兒としての自分を
磨き上げましょう。



上級編その①は女兒服で外出をしてみましょう。
めぐむ君もついに女兒服を着てお出かけをしている
みたいです。さすがに今までとは桁違いの不安と
緊張を感じているのかキョロキョロと辺りを
見回しています。

今回もかわいらしい女兒服を着ていますね。
小さな女の子らしいパフスリーブのTシャツに
水色のジャンパースカート、ピンクボーダー柄の
ニーハイソックス、すべて小〇生の女子が
着ていそうなファッションですね。



おむつもちゃんと穿いており、スカートから見えて
しまっているのが、赤ちゃんらしくて可愛らしいです。
めぐむ君もだいぶ女兒服ファッションが板について
着たようですね。

外出をして数分経ったようですが、めぐむ君はまだ、誰ともすれ違っていません。人通りの少ない時間・場所を選んだようでめぐむ君に気が付いている人はいないようです。



ところが、後ろで誰かめぐむ君に気づいた様です。下校中の小○生でしょうか？まだ遠くにいるようで、不思議そうにこちらを見つめています。すると、その少女は何かに気づいたようで、めぐむ君のそばまで駆け寄って来ました。

「あれ？もしかしてめぐむ君？」

駆け寄ってきた少女は、なんとめぐむ君のアパートの隣に住む小○生の女の子「さつきちゃん」だったのです。

家が隣な為、当然面識があり、地域活動などにも

一緒に参加していたこともあったため、

めぐむ君にとっては仲の良い妹的存在の女の子です。



めぐむ君はいきなり声を掛けられたせいで、慌ててしまい、「あの、その、」と、まともに返答することができません。

間髪入れずにさつきちゃんは

「本当にめぐむ君だよね？」

と追い打ちをかけるように聞き返します。

気が動転してしまったためぐむ君は否定もできずに、
口をぱくぱく動かすだけしかできません。

「こんな格好で何してるの？めぐむ君」

めぐむ君もう駄目だと感じたのか、ようやく絞り出した
声は正直な言葉しか出せませんでした。



「あの・・・このことは誰にも言わないで・・・」
泣きそうな声でめぐむ君はさつきちゃんに
お願いをしました。が、そのお願いを聞いた途端、
さつきちゃんは悪いことを思いついたのか
意地悪な笑みを浮かべました。

「え〜？どうしよっかなあ〜」

慌てるめぐむ君の姿をからかいながらさつきちゃんは
「じゃあ、ほかの人にバラしたくなかったら・・・
そうだっ。これから私の家に来てよ」



バラされたくない恐怖からめぐむ君は「うん」としか
言えませんでした。とりあえずバラされないと
安心したせいか、途端にめぐむ君に尿意が
襲ってきました。既にめぐむ君は尿意を感じると
おしっこを我慢できない身体になっており、
必死に我慢しようとしたが・・・



「ちょ、ちよっと！めぐむ君!？」

めぐむ君は必死におしっこを止めようとしたが、当然おしっこは止まらず、どんどんおむつを膨らませていきます。さつきちゃんもめぐむ君がおもらしをしたことに一瞬で気付きました。



「や、やだぁ・・・見ないでえ・・・」

どうやってもおしっこを止めることができず、あまりの恥ずかしさに泣いてしまうめぐむ君。さすかの事態にさつきちゃんも焦り、とりあえずこの場から移動することになりました。

「めぐむ君！とりあえずこっちに来て！」
さつきちゃんに手を引かれ、泣きながらめぐむ君は
付いていくしかありませんでした。
さあ、めぐむ君にとっては思いもよらぬハプニングが
起きてしまいました。むしろこのシチュエーションは
おむつ女兒化マニュアルからすると好都合です。



今回のステップ「上級編その①」では女兒服を着て
外出する、ということが目的です。
そして「上級編その②」では、パートナーがいないと
できないステップになっています。
つまり、上級編その①では外出時に誰かと
遭遇することが前提で作られています。

みなさんもめぐむ君のように女兒服を着て外出し、
誰かにその姿を見られてしまいたいでしょう。
そして、あなたのおむつ女兒化を手伝ってくれる
パートナーを見つけましょう。
できれば年下の女の子が良いでしょう。



自分より年下の子におむつを替えられ、自分の感情を
恥ずかしい気持ちで満たしましょう。

「あんなに小さい子でもパンツなのに自分は
おむつなんだ・・・」と情けない感情でいっぱい
しましょう。いつしか自分が男の子であるという
自覚が持てなくなり、おむつ女兒としての人格が
芽生えることでしょう。

おむつ女兒化マニュアル

【上級編 その②】

～パートナーにお着替えを手伝ってもらいましょう～

「大丈夫？ちゃんと立ってられる？私の肩に
捕まって大丈夫だからね」

さつきちゃんが優しい声でめぐむ君に声を掛けています。
さつきちゃんはおもらしをしてしまったためめぐむ君を
どうやら自分の部屋に連れてきたようです。



「あらあら、こんなにおもらししちゃって。
おしっこいっぱい我慢しちゃったのかな？」
まるで泣いた子供をあやすかのようにめぐむ君を
落ち着かせながらおもらしをしたおむつを
替えているようです。

「ほら、見て。こんなにおむつたぶたぶよ。」

「う、ごめんなさい」

さつきちゃんの言葉に何と言っていていいか分からず、咄嗟に謝ってしまうめぐむ君。まるでおねしよをしてしまった子供が親に謝っている様ですね。



「おしっこでお洋服もちょっと濡れちゃったからね。早くお着替えしちやいまいしょ。」

手慣れた様子でできばきと服を脱がしていくさつきちゃん。めぐむ君もこの状況ではされるがままになっています。

「さ、おむつ脱がすからね」

「あら。かわいいおちんちんね。めぐむくんって
こんなにおちんちん小さかったんだ。
これじゃあ弟と変わらないわ。」

まじまじとおちんちんを見つめられ、赤面するめぐむ君。
「やつ・・・見ちゃだめ・・・」

少し足を動かしておちんちんを隠そうとするも



「あつ、こら。動いたら転んじゃうでしょ。」

少し強い口調でさつきちゃんが怒言うと、めぐむ君は
子供のようにしゅんとすぐにおとなしくなっ
てしまいました。

「こんなちっちゃい子供おちんちんじゃ、おもらししても
しょうがないわね」

「でも、まさかめぐむ君にこんな趣味があるとは
びっくりしたわ。女の子の格好して、しかもおむつまで
履いちやつて。そんなに女の子になりたかったのかしら？」
その言葉が凶星すぎて何も言い返せないめぐむ君。
少し沈黙が続くとさつきちゃんは



「うふふ。本当みたいね。でも大丈夫よ。これからは
本当の女の子として接してあげるから。私の妹みたいに
接してあげる。」

めぐむ君はずっと年下の女の子に「妹」と言われ、

我に返ったのか、さすがに抵抗があったようで

「でも僕、さつきちゃんより年上だし身体も大きいし、
さすがに妹は・・・」と弱弱しく反論すると

「なに言ってるの。おねしょだけならまだしも、昼間のおむつも取れない子が私より年上なんてどう考えたっておかしいでしょ。」

めぐむ君は、何か言い返そうと小声で「だって・・・」と言いかけたところで、さつきちゃんは遮るように言いました。



「口答えるならおむつ替えてあげないからね。このままおちんちん丸出しのままでもいいさ。」

怒った口調にめぐむ君は

「ご、ごめん、さつきちゃん。ぼ、僕、妹でいいから、だからおむつ替えて・・・。」

今にも泣きだしそうな声でお願いしました。

するとさつきちゃんは怒った表情から意地悪な笑顔に戻り、
「うふふ。分かったわ。じゃあ妹ならちゃんと
お願いできるわよね? 『さつきおねえちゃん。
おもらししちゃったからおむつ替えて』って。」



めぐむ君は諦めたように言いました。

「さつきお姉ちゃん。おもらししちゃったから
おむつ替えてください。」

「うふふ、よく言えました。めぐむちゃん。じゃあおむつ
穿かせてあげるわ。ほらおむつにあんよ入れて。」
さつきちゃんは満足そうに笑みを浮かべめぐむ君の
おむつを替えてあげました。

さあ、みなさんもめぐむ君のようにパートナーに
お着替えを手伝ってもらいましょう。
あなたはおむつの取れない女の子です。お着替えだって
一人できなくて当然です。
お着替え中にあなたの小さなおちんちんが見られて
しまいますが、仕方ありません。



おむつを穿かせてもらう瞬間にもきつと切なくて、
恥ずかしい気持ちが芽生えるでしょう。
「お着替えも一人でできない子になっちゃったんだ」
と恥ずかしくなるでしょう。
その恥ずかしい気持ちが自分をおむつ女兒に
近づけてくれるでしょう。

おむつ女児化マニュアル

【上級編 その③】

～一緒にお買い物に行きましょう～

続いてのステップはパートナーと一緒におむつを
買いに行ってもらいます。

このステップまでマニュアルをクリアしてきたあなたは、
もうすでに「おむつの取れない女の子」です。

当然ですが、一人でおむつを替えることもできませんし、
おむつを買いに出掛けることなどできるはずありません。



な•の•で•お•姉•ち•ゃ•ん•に•お•買•い•物•に•連•れ•て•行•っ•て•も•ら•い•、
自•分•が•使•う•お•む•つ•を•一•緒•に•選•び•ま•し•う•。

お姉ちゃんならきつと、あなたにぴったり合うおむつを
選んでくれると思います。

めぐむ君もさつきちゃんと一緒にドラッグストアへ
来たようです。二人はどのようにしておむつを
選ぶのでしょうか。

「いらつしやいませー」

明るい女性の声が店内から聞こえてきます。

「えっと、子供用おむつはどこかな・・・」

キヨロキヨロと辺りを見回しながらさつきちゃんは
ベビー用品コーナーを探しています。



何かを探している様子のさつきちゃんに一人の
女性店員が気づき、声を掛けました。

「何かお探しでしょうか？」

「子供用のおむつを探しているんですけど・・・」

「子供用のおむつならあちらにございますよ。

ご案内しますね。」

「こちらがベビー用品コーナーになります。」

「ありがとうございます。店員さん。」

へへ。おむつって今こんなに種類があるんだ。」

ベビー用品コーナーには乳幼児用から小学生用まで
たくさんのおむつが並んでいました。



「うーん。いっぱいあるとどれにすればいいか
迷っちゃうわ。」

子供用おむつだけでも5社以上のメーカーがあり、
サイズもそれぞれ違うおむつが並んでいました。

「ちなみにどのようなおむつをお探しですか？」

「小学生でも、穿けるような大きめのサイズの
子供用おむつってありますか？」

「小学生でも入るサイズ、ですね。それでしたらこちらのウルトラビッグというサイズはいかがでしょうか？」
女性店員が勧めてきたのは、子供用おむつの中で一番大きいサイズのものでした。適正体重が25kg〜40kgと小学校高学年の子供でも穿けそうなサイズです。



「こちらなら小学生のお子様にも穿けるサイズですし、おねしょも二回分吸収できるんですよ。」
「へ〜！二回分も吸収しちゃうなんてすごいですね。
あ、しかもこれ、柄が可愛いですね。」
さつきちゃんが手にしたのはウルトラビッグサイズの女の子用と書かれたおむつでした。

そのおむつのパッケージには女子小学生と思われる少女がおむつを穿いて自慢げな笑顔をしていました。デザインかわいらしい花柄やお姫様柄など、いかにも女子小学生が好みそうなカラフルなデザインで作られていました。

「これならお客様にもピッタリだと思いますよ。」



女性店員はどうやら、さつきちゃんがおむつを穿くと思っていたようでした。

それに気づいたさつきちゃんは後ろで少し隠れるように立っていためぐむ君を呼びました。

「店員さん、違いますよ。おむつが必要なのは私じゃなくてこの子です。ほら、めぐむちゃん。」

さつきちゃんが半ば強引にめぐむ君の手を引き、
女性店員の前に連れてきます。

「ちよ、ちよつとさつきちゃんっ」

めぐむ君はいつも以上に恥ずかしそうな素振りをして、
少し抵抗しているようです。それもそのはず、

ドラッグストアにいた女性店員はめぐむ君と同じ大学に
通っていた同級生の女の子、「あかり」ちゃんでした。



（やだ・・・こんなところあかりちゃんに見られたら
恥ずかしくて死んじゃう・・・）

あかりちゃんもすぐに気づき、驚いた様子で
めぐむ君に声を掛けました。

「あ、あれ？もしかしてめぐむ君？どうしたのこんな
格好して。」

「こっこれはっ・・・違いのー！」

必死に言い訳を考えようとしためぐむ君でしたが、焦りと恥ずかしさで何も言葉が出ずに、ただ口をパクパクと動かす事しかできませんでした。困った様子のめぐむ君を見て何かを察したのか、あかりちゃんは、店員として接してきました。



「こちらのお客様がおむつを使われると言うことでよろしいでしょうか？」
「そうなんです。この子、おねしょがひどいみたいで、毎日してる見たいです。しかも最近はおねしょだけじゃなくて昼間もおもらししちゃうんです。だからいつもおむつ穿かせてるんです。ほら。」

さつきちゃんはめぐむ君のジャンパースカートを
捲り上げました。

「きゃっ、ちょ、ちよっと!」

めぐむくんは、まるでスカートを捲られた女の子の
ような反応をして必死にスカートを押さえたが、
可愛らしいリボン柄のおむつがあかりちゃんに
見えてしまいました。



「ね、この子、本当におむつ穿いてるでしょ。」

「失礼致しました。こちらのお客様のおむつを
お探しかったですね。」

あかりちゃんもめぐむ君がおむつまでしていることに
かなり驚いたようですが、まじめな性格の
あかりちゃんは、めぐむ君に合うおむつを
探してきてくれました。

「こちらのおむつは子供用なのですが、サイズも大きい
ですし、おしっこすると濡れた感触がするように
なっています。おむつ離れを目指すお子様が、
おむつが濡れた感触に気が付きやすいように作られて
いるんですよ。」

あかりちゃんの持ってきたおむつのパッケージには
『トイレトレーニング用』と書いてありました。



「へ〜！トレーニング用なんてあるなんて知らなかったわ。
昼間のおむつも取れないめぐむちゃんにはぴったりだね。
このおむつで一緒にトイレトレーニング頑張ろうね。」

めぐむ君が恥ずかしがるのを分かってわざとらしく
さつきちゃんがそう言うと、あかりちゃんも笑顔で
めぐむ君に話しかけました。

「めぐむ君。事情は分らないけど、おむつはずれ
できるように頑張ってね。」

めぐむ君は顔から火が出そうなほど恥ずかしかった
ようですが、小さく「うん」としか言えませんでした。
「ほら、めぐむちゃん。店員さんがめぐむちゃんの
おむつ探してくれたんだよ。ちゃんとお礼言いなさい」
「私の・・・使うおむつを探してくれてありがとう」
顔を真っ赤にしながらかお礼を言うめぐむちゃんに、
あかりちゃんは優しく微笑みました。



さあ皆さんも恵くんのようにパートナールと一緒に
おむつを買いに行きましょう。必ず店員さんには
「自分が使うおむつ」だということを伝えましょう。
子供用サイズでもあなたが穿けるおむつは必ずあります。
そして可愛い子供用おむつを選びましょう。
あなたの背格好でおむつを使う事に、店員さんは
好奇の目で見てくるかもしれませんが、仕方ありません。
あなたはおむつの取れない女の子なのですから。

おむつ女児化マニュアル

【上級編 その④】

～おむつを替えてもらいましょう～

このステップまで来たあなたは、もう既に「おむつ女兒」と言って良いでしょう。おねしよは当然毎日のようにすると思いますし、昼間のおむつですら外れなくなっていると思います。この段階までくるとあなたの体は完全に「赤ちゃん」と同等です。



つまり、おむつも自分で変えられませんか。誰かにおむつを替えてもらう必要がありません。今回のステップはパートナーにおむつを変えてもらうステップになります。おむつを自分で替えられなくなってしまったためぐむ君が、どのようにしておむつを替えてもらっているか見ていきましょう。

「めぐむちゃん。起きてる？」

「うーん。」

お昼寝をしていためぐむ君は、さつきちゃんが

部屋に入ってくる音でめぐむ君は目を覚ましました。

「めぐむちゃん、いっぱいおねんねしてたのよ。

おねしょは大丈夫かしら？」



めぐむ君はその言葉でやっと自分の下半身の不快感に
気付き、はっとしました。

「その様子だとおねしょしちゃったみたいね。どれどれ。」

さつきちゃんがめぐむ君のおむつを触ろうとすると、

めぐむ君は咄嗟に言い訳をしました。

「だ、大丈夫っ。ぼく、おねしょしてないからおむつ替えなくていいよ。」

流石にめぐむ君も年下の女の子におむつ替えまで

してもらうのは恥ずかしいらしく、抵抗があるようです。

「本当におねしょしてないの？じゃあ、おむつ見せて

ごらんなさい。おねしょしてないなら見せられるわよね？」



そう言われるとめぐむ君は顔を真っ青にしました。

めぐむ君の穿いているおむつにはおしっこサインが

あり、おむつが濡れると黄色のサインが青色に変わります。

それに気づいたためぐむ君はおむつを隠そうとしましたが、

時は既に遅し。おしっこサインが青くなっているのを

ばっちり見られてしまいました。

「あら、おしっこサインが青色になっているわよ。
おねしょしちゃってるじゃない。なんで嘘ついたの？」
「ごめんなさい……。おねしょしちゃったら
怒られるかと思って……。」
泣きそうなめぐむ君にさつきちゃんは母親のような
優しい口調で慰めました。



「おねしょしたからって別に怒らないわよ。だって
めぐむちゃんは、おむつの取れない赤ちゃんだもんね」
「赤ちゃん」という単語を言われても、おむつをしている
自分の今の姿では、何も反論はできませんでした。
むしろめぐむ君は自分が大学生である事すら
忘れかけている様でした。

「でもね、めぐむちゃん。嘘はいけないわよ。おねしょしちゃったら、ちゃんと正直に言わなきゃ。」

「ごめんなさい……。」

「ほら、おむつ変えてほしい時はなんて言うんだっけ？」

「さつきお姉ちゃん、おねしょしちゃったから

めぐむのおむつ替えてくdashyai。」



めぐむ君は心まで幼くなり始めている様で、言葉遣いまで幼くなっている様でした。

「うふふ。よく言えました。じゃあおむつ替えてあげるからね。ちゃんと良い子にしているのよ？」

「うん……。」

さつきちゃんは、既に慣れた手つきでおむつのサイドを破っておむつを広げました。

「わー。いっぱい出ましたねー。何回おねしょしちゃったのかしら。おむつから溢れちゃいそうじゃない。」

めぐむ君のおむつは限界寸前までおしっこを吸収し、タプタプになっていました。

「こんなにおねしょするなんてよっぽどおしっこが我慢してたのかしら？ねんねする前にちゃんとトイレ行っただの？」



「ううん、行ってないの。」

「なんでトイレ行かなかったの？」

お姉ちゃんがいつも言ってるじゃない。ねんねする前にちっちないとおねしょしちゃうよって。

あ、もしかしてトイレが怖くて一人で行けなかったの？」

「ちっ違うの！おぼけじゃなくて・・・ちっちが出なかったの。」

めぐむ君の体はもうおしっこをする感覚すら忘れてしまいトイレに行っても、おしっこは出てこない状態でした。
「あら、そうなの。おしっこの仕方でも忘れちゃったのね。もう完全にめぐむちゃん赤ちゃんになっちゃったわね。」



「でも大丈夫よ。これからは本当の赤ちゃんとして接してあげるから。」

「え？それって・・・。」

「赤ちゃんは細かいことは気にしないでいいのよ。ほら、おむつぐしょぐしょで気持ち悪かったでしょ？今フキフキしてあげるからね。」

さつきちゃんは赤ちゃんのお尻拭きを取り出して
めぐむ君の濡れた股間を丁寧に拭いていきます。
「いつ見てもちっちゃくてかわいい赤ちゃんおちんちんね。
前よりもちっちゃくなっちゃったんじゃない？
こんなおちんちんじゃあ、おねしよするのも
仕方ないわよね。」



そう言われてめぐむ君は恥ずかしい気持ちはあるものの、
濡れたおむつの不快感からの解放感で心地良さの方が
勝っていました。

「ほら。綺麗になったわ。じゃあ新しいおむつ
当てるからね。ほらお尻上げて。」

そう言うときつきちゃんはいつもの紙おむつではなく、
可愛らしい柄の布を取り出しました。

さつきちゃんを取り出したのは紙おむつではなく、布おむつでした。ピンク色に花柄のおむつカバーはいかにも赤ちゃんが着けそうな可愛いデザインでした。

「めぐむちゃん、最近おねしょの回数多いでしょ？布おむつなら洗濯するだけだし、お金も安く済むから今度からおうちでは布おむつを当てるからね。」



「うん・・・分かった。」（布おむつなんて、ほんとの赤ちゃんみたいで恥ずかしいよ・・・。）

さつきちゃんは、めぐむ君がより赤ちゃんらしいシルエットになるように、布おむつを多めに組みました。「えっと、布おむつを組んだら、外羽を留めてと・・・はい。おむつ替え終わり。どう？おなかはきつくない？大丈夫？」

「うん、大丈夫。ありがと。さつきお姉ちゃん。」
初めての布おむつは紙おむつよりずっと柔らかで温かく、
優しく包まれる感触でした。その感覚にめぐむ君は
とても安心した気持ちになりました。
厚めに当たった布おむつのおかげで脚が閉じれなく
なってしまっためぐむ君の姿は赤ちゃんそのものでした。



「これでもうおねしょいっぱいしても安心だからね。
うふふ。こうしてみるとめぐむちゃん、本当の赤ちゃん
みたいよ。」
（どうしちゃったんだろう僕……。こんな赤ちゃん
みたいな格好にされて恥ずかしいはずなのに……。
なんだかホッとして安心しちゃってる……。）

「よしよし。ちゃんと上手におむつ替えできたね。
あら？。めぐむちゃん、目がトロンとして
きちゃったわね。もうおねむの時間かしら？」
めぐむ君は完全に安心しきってしまい、今にも眠って
しまいそうでした。
「うん……。ぼく、ねんねすりゅ……。」



（ああ……。あったかくて、気持ちよくて、
すごく懐かしい感じがする……。もういつその事、
このまま赤ちゃんになっちゃった方が楽なのかな……。？）
きつとぼくは最初からこうなりたいと……
思ってたんだ。だから……。）

めぐむ君は自分のことを赤ちゃんだと認め始め、
自分が大学生であることをもう忘れかけているようです。
それもそのはず、今の自分の姿は完全に、
赤ちゃんそのものですから。

このステップまで来たあなたも自分が赤ちゃんで
あることを認め始めていることでしょう。



パートナーにどんなに赤ちゃん扱いされても
恥ずかしがることはありません。
おねしょして失敗してももう恥ずかしくありません。
もう一度自分の今の姿を見てみてください。
あなたはもう一人でおしっこすらできない
赤ちゃんなのですから。

おむつ女兒化マニュアル

【上級編 その⑤】

～ベビー服で外にお出掛けしましょう～

ついにこのおむつ女兒化マニュアルも最終ステップです。最終ステップは「ベビー服でお出掛けしよう」です。心も体も赤ちゃんになったあなたは外出する時も1人では行けません。お出掛けする時はお姉さんに連れて行ってもらいましょう。



もちろん、このステップの時点ではあなたは完全に「赤ちゃん」です。なので、赤ちゃんらしくベビー服でお出掛けしましょう。

それでは、めぐむ君がどのようにお出掛けに連れて行ってもらっているか見て行きましょう。

「んー！天気が良くて気持ち良いー」

今日は日曜日。雲一つなく晴れた良い天気、さつきちゃんはめぐむ君を連れてお出かけをしていました。

「お日様がポカポカしてて気持ち良いでしょ？」

めぐむちゃんも久々のお出かけで嬉しそうね。」

「うん……。でもこのかつこは恥ずかしいよう……。」



めぐむ君は赤ちゃんらしいフリルの付いたかわいらしいデザインのベビー服を着させられていました。

さらにベビーカーにまで乗せられ、もう完全なる

赤ちゃん扱いをされていました。

心も赤ちゃん化しているめぐむ君ですが、外出となると途端に自我が戻るのか、急に恥ずかしさが襲ってきているようです。

「めぐむ君は赤ちゃんなんだから、ベビー服でも何も恥ずかしい事なんてないよ。」

「そうよ。めぐむちゃん。それにこういうお天気の日にはお出かけするのが1番よ。」

今回はさつきちゃんだけでなく、めぐむ君の同級生のあかりちゃんまで一緒に来ていました。



「めぐむ君は一応大学もあるからね。学校では私が面倒見なくちやいけないと思って今日来てみたの。」

同級生に今の赤ちゃんのような姿を見られ、

めぐむ君は恥ずかしさでいっぱいなのですが、

めぐむ君もこの状況に既に慣れ始め、むしろこの状況でもあかりちゃんにお世話をしてもらえることに

安心感を覚えていました。

「ほら着いたわよ。」

小さな子供の元気な声が聞こえたと思うと、公園に着いていました。公園にはさつきちゃんよりも年下であろう幼い子供たちが楽しそうに遊んでいました。さつきちゃんは子供たちを指差しながら言いました。

「ほら、めぐむちゃん。お兄ちゃんお姉ちゃん達、おいかけっこして遊んでるね。」



「めぐむ君はちゃんとあんよが出来るようになったらベビーカー卒業だからね。」

自分よりずっと幼い子供たちが元気に遊んでいる中、ベビーカーに乗せられ、眺める事しかできない自分の姿に、恥ずかしさと情けなさで感情が溢れました。

するとめぐむ君が今までギリギリで保っていた理性が崩れ、やがて公園で遊ぶ子供たちを羨ましそうに眺めながらめぐむ君は思ってもない言葉を口にしました。

「あの子たちが僕よりお兄ちゃんおねえちゃんなの？
ほんとに？」

「当り前じゃない。だっておむつしてるめぐむちゃんが
あの子たちよりお兄さんお姉さんなわけじゃない。
めぐむ君の方がちよつと体が大きいかもしれないけど、
赤ちゃんであることに変わりはないわ。」



遊んでいる子供達が自分より本当に年上だと
感じてしまうほど、めぐむ君の精神年齢は幼く
なっていました。

「大丈夫よ。めぐむちゃんだっていつかきつと、
あんよも上手になるだろうし、おむつ外れも
出来るようになるわ。」

するとそこへ遊んでいたこどもたちがこちらへ
駆け寄ってきました。

不思議そうにめぐむちゃんを見つめている子供たちに
さつきちゃんが話しかけました。

「こんにちは。この子はめぐむって言うの。」

体はみんなより大きいんだけど、まだ一人でおしっこ
できなくてね。」



「へー。だからおっきいのおむつしてるんだね。」

じゃあまだ赤ちゃんなんだね。だってママ言ってたもん。
おむつしてる子は赤ちゃんだって。」

「そうよ。だからみんなの方がお兄ちゃんおねえちゃん
なのよ。これから、遊ぶ事があったらこの子とも
仲良くしてね。」

「うん！わかった！私たちお兄ちゃんお姉ちゃんだから仲良くできるよ！」

「うふふ。ありがとね。ほら。めぐむちゃん。

お兄ちゃんお姉ちゃんに挨拶できる？」

「うん……。めぐむとなかよくしてくれてありがと。」

「よろしくね！めぐむちゃん！」



そういうと子供たちは元気に走って、

また、おいかけっこで遊び始めました。

「うふふ。めぐむ君。お友達ができてうれしいね。

今度遊ぶ時にはあんよ出来たら一緒においかけっこして遊べるわね。」

「そうになったらお靴も買わないとね。」

「お洋服もまだまだ少ないからいっぱい買わないとね。可愛いお洋服たくさん買っちゃおうかしら。」

「お洋服はスカートが良さそうね。スカートならおむつも替えやすいし。」

「うふふ。そうだね。あんよはできても、おむつが外れるのはまだしばらくかかりそうだもんね。」



「めぐむちゃんも早く遊びたいでしょ？」

「私たちもめぐむちゃんが早くあんよが出来るようにちゃんと手伝ってあげるからね。」

「トイレトレーニングも一緒に手伝ってあげるからね、早くお姉さんパンツが穿けるようになると良いね」

「うん。さつきお姉ちゃんあかりお姉ちゃんありがとう。めぐむ頑張るね。」



「うふふ。ありがとうがちゃんと言えるなんて
偉いわめぐむちゃん。」

「よしよし。いい子ねめぐむ君。」

「これからずっと可愛がつてあげるからね。」

めぐむ君は赤ちゃん返りしました。もう普通の大学生として生活するのは難しいかも知れませんね。さあ、皆さんもめぐむ君と同じようにベビー服で外出しましょう。あなたは赤ちゃんなので1人で歩けません。ベビーカーに乗せてもらって赤ちゃん気分を存分に味わいましょう。



あなたがベビー服を着ていても、ベビーカーに乗っていてもおかしい事ではありません。

だってあなたはもう「赤ちゃん」なのですから。